

安全・安心の経済学

第4回四大学連合文化講演会
2009年10月9日

一橋大学経済学研究所 教授
世代間問題研究機構長
青木玲子



安全・安心の確保

- 冷凍餃子
- 牛海綿状脳症 (BSF)
- 欠陥湯沸かし器
- 解決方法
 - － 輸入禁止
 - － 情報の収集と公開
 - － 損害訴訟

安全・安心の経済学

- ミクロ経済学
 - 人や企業の行動を説明する
- 情報の経済学
 - 情報が偏在すると市場が機能しないことがある
 - 介入が必要
- 法と経済学
 - ルールに反応して企業・消費者が行動する
 - インセンティブ(動機付け)を考えることが大切

情報の経済学

- 12万円の電子レンジ
- 「安心品」と「心配品」がある
- 心配品は故障が多く、消費者にとっては2万円の価値しかない
- 生産者は安心品か心配品区別できる
 - 安心品は生産段階で試験と破棄を繰り返すので、価格が11万円以上でないと採算がとれない
 - 心配品は3万円以上ならOK
- 心配品は全体の4分の1

消費者と生産者の評価

	消費者	生産者
安心品	12	11
心配品	2	3

消費者の考え

- 電子レンジが安全品か心配品かわからない

消費者の考え

- 電子レンジが安全品か心配品かわからない
- 消費者は4回に1回は心配品を買ってしまうと考える

消費者の考え

- 電子レンジが安全品か心配品かわからない
- 消費者は4回に1回は心配品を買ってしまうと考える → 12万円の価値はない
- 12万円が4回に3回、2万円が4回に1回で、平均して**10万円以下** (9.5万円) の価値と判断
- よって、価格が**10万円以下** でなければ購入しない

消費者と生産者の価値のちがい

	消費者	生産者
安心品	12	11
心配品	2	3

消費者と生産者の価値のちがい

	消費者	生産者
安心品	12	10 < 11
心配品	2	3

消費者と生産者の価値のちがい

	消費者	生産者
安心品	12	10 < 11
心配品	2	10 > 3

生産者の行動

- 10万円より高いと売れない
- 安全品は売れない
- 心配品しか供給しない

心配品の評価

	消費者	生産者
安心品	12	11
心配品	2	3

心配品の評価

	消費者	生産者
安心品	12	11
心配品	2	< 3

市場はどうなるか

- 心配品しかないとわかれば、誰も購入しない
- 消費者は2万円以下でないと購入しない
- 生産者は3万円以上でないと供給しない
- 電子レンジの市場が成立しない

解決方法

- 情報の提供=商品が安全品かどうか消費者がわかるようにする
 - 安全基準
 - 建築基準、乗り物、エレベーター
 - 認定制度
 - 薬品、医療、教員、弁護士
- 「心配品を排除」するより**情報の提供**が重要
 - 心配品を買う人がいても情報提供が望ましい

心配品も社会的に価値がある場合

	消費者	生産者
安心品	12	11
心配品	4	3

社会全体でみるとどうか？

- 心配品は購入することができるが、安全品は売買されない
- 安全品も消費者の評価(12万)より生産者の要求している価格(11万)が高いため、売買されることが望ましい
- この場合は心配品の売買も望ましい
 - 消費者の評価(4万)より生産者の要求している価格(3万)が高いため、売買されることが望ましい

信頼できる情報

- 安心品の生産者は安心品であることが消費者にわかるようにする**インセンティブ**がある
- 情報を公開しないと心配品だと消費者は推測するため
- 安心品か心配品が区別するのは**容易でない**場合がある
 - 費用がかかる
 - 専門家が多大な時間をかける必要がある

解決方法 その2

- 事故が起こった時に損害賠償を支払わせる
- 損害賠償の責任を生産者が負う
- **損害賠償のルール**を事前に決める必要
- ルールに従って生産者が行動するからである

損害賠償

- **賠償のルール**はどのように決定すればよいか？
- 賠償であるから、被害者の損失を補填する
- 精神的な苦痛に対する慰謝料
- 過失の有無
- 安全にするために努力したか？

事故を防ぐ方法がある

- テストをすると事故の確率が減少できる
- テストをする費用は2万円
- テストを義務づけることも可能
- テストの有無を事前にチェックするのが困難な場合は？

適切な賠償ルール設計

- テストの**有無に関係なく賠償金** 20万円を支払う
 - 部品をつけない 20万
 - 部品をつける $20 + 2 = 22$ 万
 - 部品をつけるインセンティブがない
- テストの**形跡があれば賠償金が15万円、テストの形跡がないと20万円を支払う**
 - テストする 20万
 - テストしない $15 + 2 = 17$ 万
 - テストをした方が得 !!!

インセンティブ

- 社会全体で考えると
 - 事故が減少する
 - 部品費用がかかっている
- 社会的に事故の減少が部品総費用に見合っていれば、過失の有無（事故を防ぐ努力の有無）によって変化させるべきである
- POINT テストが「正しい」行動というより、**インセンティブ**の効果がある

安全・安心社会へのポイント

- **信頼できる情報提供**
 - 生産者、消費者がそれぞれ合理的な判断ができる環境
 - 結果的に心配品が排除される
- **ルールのインセンティブ効果**
 - 罰を使って社会的に望ましい行動の動機付けをする
- さらに、インセンティブを考えないと、意図しなかった結果になることがある

ご清聴ありがとうございました